

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4677000129
法人名	社会福祉法人 三峰会
事業所名	グループホーム 回生園
所在地	鹿児島県曾於郡大崎町菱田家戸原3063番地 (電話) 099-477-0372
自己評価作成日	平成28年6月14日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島県鹿児島市新屋敷町1 6 番A棟3 F302号
訪問調査日	平成28年8月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

同法人が運営する特別養護老人ホームやデイサービス等があり、敷地内の一角にグループホーム回生園がある。法人内の利用者の交流は行事等を活用し合同開始が行われている。また、周囲を田園に囲まれたのどかな環境の中にあり、建物は木造作りで食堂や居間を中心に、回廊式になっており各居室やトイレが見守りしやすいようになっている。利用者においては、「くもん学習」を取り入れ脳機能活性化の一躍を担っている。又、利用者様一人ひとりがのびのびと生活できるようにケアプランに添った支援を行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

大崎町郊外、のどかな田園風景の広がる閑静な地に立地しているグループホームである。広い敷地には母体法人の介護老人福祉施設、通所介護事業所、訪問介護事業所等が併設されて緊急時の災害対策や合同の行事等で密な連携が図られている。

法人の異動や離職が少なく、働きながらステップアップに向けた資格取得にも積極的にチャレンジ出来るように法人はバックアップ体制の充実を図り現在、介護福祉士6名、ケアマネージャー3名、看護師1名、准看護師1名と知識と経験の豊富な職員が確保されて、1ユニットの限りある職員体制ではあるがスムーズな業務と質の高いサービスの提供が行われている。

排泄においては日中ほとんどの利用者が下着で生活しており入居後に本人の様子や可能性を見出して改善された利用者も多い。家族との関係も良好で年4回の家族会には毎回ほぼ全家族の参加が得られ、ホームの清掃活動にも協力してもらい、気軽に意見や要望を表してもらえる馴染みの関係が築かれている。利用者との関わりも家族の役割をケアプランにも盛り込んで離れて生活していても家族とともに利用者を支えていることがわかる。

職員の声かけも優しく、常に利用者に関わることを心がけて信頼関係を築き「お客様満足度100パーセント」の利用者の接遇向上を目指している。利用者の表情も明るく、安全で自由な生活を送っている様子が利用者の行動からも伺われる。管理者・職員は現状に満足することなく今後も更なる質の向上を目指している。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	ホームの理念に基づき、利用者の方が地域社会の一員としての自覚が持てるような支援を職員一同協力して行っている。	理念は職員の思いと意見を集約して作成している。日常、改めて唱和する場面はないが業務のなかで機会を捉えては確認するように促している。また、毎年、理念の見直しについての検討会議を行っており理念の共有と実践に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内の行事等に積極的に参加したり、近くにあるJA支所の自動車販売に出掛けたり、地域行事に参加して、地域とのつながりを大切にしている。	法人の施設の一角に立地していることもありなかなか地域交流が困難な環境ではあるが、校区の行事見学や毎週近所にくる移動販売の買い物に出かけて積極的に地域住民とのふれあいの機会を作っている。また、法人の行事も多く地域の方々が多数訪れて交流の機会となっている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	町の一般参加型認知症部会や介護事業所連絡協議会に参加し情報の共有・交換等を行い、地域全体での支援に関わりをもっている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の割合で開催しており、ホームの活動や利用者状況等の報告を行い、サービス向上の意見・情報交換等を行っている。	民生委員・地域住民・家族代表・利用者代表・行政の参加を得て2ヶ月に1回開催している。ホームの現状報告や質疑応答などが行われ、地域や行政からの情報提供などをサービス向上に繋げている。また、毎年家族会と運営推進会議を合同で行う機会があり、多数の家族の参加も得られている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域密着型という点で行政との関係は密にするように心がけており、情報の共有を行い、協力関係を大切にしている。	毎回運営推進会議に出席してもらっており、ホームの様子や実情を伝えている。また、認知症サポーター養成講座の勉強会を行政と協働して取り組むなど日頃から連携を図り協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内に「身体拘束委員会」が設置しており、月1回の定期的開催あり。ホーム内においても常に身体拘束しないケアに向けて取り組んでいる。	法人全体で身体拘束委員会を設置して毎月検討会議を行っている。ホームでも定期的に研修会や勉強会を実施して職員の認識の共有を図っている。日中は玄関の施錠などせずに職員の見守りと連携で抑制のない安全で自由な生活を支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人の全体研修会やホームの内部研修等において勉強会などを行い、身体的虐待を始め、言葉使いによる精神的虐待が行われないよう努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人研修やホーム内研修等において勉強会等を行い、利用者の権利擁護・成年後見制度等の勉強会を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に契約書・重要事項説明書・運営規定等の説明を十分に行い、家族及び利用者の不安や質問等に答えるようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見相談苦情箱を玄関に設置し、利用者や家族に意見を求めている。また、家族面会時やカンファレンス・家族会・アンケートなどを通して、利用者及びホームのサービス向上を図るための情報交換を行い、更なるサービスの向上に努めている。	年4回食事会を兼ねて家族会を開いており、毎回ほぼ全員の参加が得られ、ホームの清掃活動にも協力してもらうなど家族と良好な関係が築かれている。管理者・ケアマネを中心として職員は積極的に家族との会話やコミュニケーションを図り意見・要望等も都度聞き出して改善に向けて取り組んでいる。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	グループホーム職員と代表者である園長、事務長、課長を交えた月1回のグループホーム会議を開催し、月行事計画や利用者の情報を共有し意見の交換の場としている。	毎月全員参加のグループホーム会議を開催して職員からの意見や提案を話し合っている。法人内の異動や離職が少なく、職員は資格取得にも積極的に現在介護福祉士6名ケアマネ3名看護師1名准看護師1名とほとんどの職員が有資格者で質の高いサービスの提供に結び付いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	4月度より常勤を5名・非常勤3名で、うち看護師を1名配属した勤務である。月間勤務においては職員の希望休を2日とし、常勤職員は週労40時間の厳守である。また、残業のない職場・働きがいのある職場作りを目指している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>年2回の面接カードにおいて、自己目標と実績・評価を行い自己研鑽を行っている。また、各研修においても積極的に受講させ、サービスの向上を目指している。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>大隅地区介護事業所連絡協議会に加入し、認知症ケアに係わる者としての情報交換を行いサービス向上を図っている。また、他事業所との交流も行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居相談及び入居前の契約に本人と家族に来園していただき、環境の確認と順応性を見極めをしていただき、納得の上入居を決定してもらっている。又、安心して過ごせるよう意見や要望を聞き入れている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族との連携は特に重要であることを職員一同が認識しており、入居間もない時期は多くの面会をしていただき、安心感の構築と信頼関係を深めるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居にあたってのモニタリングやカンファレンスを行い、家族・本人の様々なニーズを導き出し、本人にあった無理のないサービスに努め、初回のケアプラン作成に反映させている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者に合わせて洗濯物の畳みや干し作業、調理のできる方、食器洗い、掃除のできる方と個々の能力に合わせ協力をもらっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	施設の中で生活を余儀なくされていることを考慮し、職員と家族との信頼関係の構築や相互協力を行い、安心安全で過ごせるよう努めている。家族会・各行事等の参加や面会等の声かけを行っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	環境の変化に伴う不安感や心身虚弱化を防止するためにも、入居時に馴染みの品や家具等を持ち込んで頂いている。又、出身集落での行事等参加の支援も家族の協力で行われている。	家族の協力をもらいながら外泊・一時帰宅・お墓参り・美容室利用などこれまでの馴染みの関係や生活習慣が継続できるように支援している。また、友人・知人の訪問もあり訪ねやすいように配慮している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常生活の場となっている食堂兼居間での席は、人間関係の構築の場として特に重じ、人権・尊厳等を配慮したくつろげる生活の場と位置づけ、必要毎に対応している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院で退去となった場合や特別養護老人ホームへ転居された方について、定期的な様子伺いを行っている。また、その後の葬儀等にも参列している。。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	計画作成担当者は、ケアプランを作成するにあたり本人の意向や訴えを傾聴し、家族の要望や意見をふまえて「その人らしい生活」のプランを立てようと日々努力をしている。	日常的に寄り添い、関わることで本人との信頼関係を築くように努めている。特に居室や入浴など一対一の場面で思いや意向を表してくれることが多い。会話が困難な利用者からは表情や仕草、関係者からの情報で把握に努め本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者一人ひとりの人生の背景、生活歴を考慮し、その人それぞれにあったケアサービスの計画と実践に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の様子をケアプランに添った記録として行い、本人の行動や言動・状態を分かりやすい表現で記入している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者の現状把握を行い、家族との連携を密に取りながら、本人の意向を重点に置き、職員からの情報を得ながら、入居者が安心安全で過ごせるようなサービス計画の作成に努めている。	入居時に本人・家族から希望や好きなこと、家族がしてあげられることなどを具体的に聞きだし個々に応じた個別性の高い介護計画を作成している。趣味の継続や家族・地域住民が担当者になっているサービス内容も盛り込まれており地域密着型のグループホームらしい介護計画となっている。変化があれば都度見直しを行い変化がなくても定期的(3ヶ月ごと)に見直しを行って家族にも内容を認識してもらっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録において、生活の様子に1日の生活状況を時間毎に記入。気づきや特記事項は、早出と夜が連絡簿に記入し、出勤時に職員が閲覧し情報収集する。朝と夕方には申し送りを行い、情報の共有を行うなどして、ケアプランに反映させる体制をとっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の心身及び身体状況の変化に合わせて柔軟に対応するように職員一同が心がけている。利用者の中にはコーヒーを希望されて個人負担で飲食されている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者のほとんどが地域出身の方で、地域に馴染んだ環境を活用し、安心・安全に過ごせるように支援に努めている。防災避難訓練では年2回特養との合同で消防署・地区消防団・地域の方が参加して行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時にかかりつけ医の希望確認を行い、かかりつけ医との連携は、密に行い緊急及び急変時の対応としている。受診時は必ず職員が付添いを行い家族報告をしている。	本人・家族の希望のかかりつけ医の支援をしている。受診はホームより同行しており医療機関と直接関係を築いている。また、ホームの看護師による健康管理も密に行われて家族の安心にも繋がっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>健康管理上の看護体制は、常勤の看護師を配置し、常時適切な医療の支援が図れるよう連携を行い、24時間対応を行っている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>入院時にはサマリー等の情報提供を行い、医療機関との連携を図っている。入院後も随時情報の把握として常に面会を行い、関係機関との情報交換を行っている。また、退院を想定した支援にも努めている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入居時「重度化した場合の対応に関わる方針」の説明を行い、家族及び本人の意向に添えるように努めている。状態の変化が生じた場合は医師と家族相談の上、対応を行っている。重度化においても緩和ケア及び看取りケアに準ずる対応を行っている。</p>	<p>重度化・終末期に向けた方針を入居時に説明している。入居後は介護度や状態変化に伴って医師の判断のもと家族と方向性を話し合っってホームでできる最大限の支援に取り組んでいる。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>看護師を常勤配置し、夜間帯はオンコール体制で対応としている。また、法人内で年1回消防署による救急救命講習会を開催し受講し緊急時に備えるよう心掛けている</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>法人合同で年間2回の避難訓練を実施し、ホーム単独での避難訓練も定期的に行う。特に、夜間職員1名を想定した避難訓練を重視している。</p>	<p>法人の敷地内にあり、利用者の安全を確保するため合同での避難訓練を実施して協力関係を築いている。また、ホーム独自に夜間想定 of 自主訓練も行っている。スプリンクラーは設置されており備蓄も確保されている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	内部研修で「権利擁護や人権・苦情相談」等の勉強会を行い、「お客様満足度100%」を目指している。利用者への声かけや直接的処遇に気を付けて、利用者の接遇向上に努めている。	羞恥心への配慮や生活歴や性格を把握して個々に応じた言葉かけや対応に努めている。業務の中でも気づいたら注意し合うなどして職員の質の向上を目指している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の方が共同生活を強いられていることを鑑み、必要に応じ本人の希望を傾聴して、希望が叶うように援助を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の業務に合わせるのではなく、常に「利用者中心のケア」の実践に心がけ、利用者の生活リズムに職員が合わせるよう努めている。入浴・ドライブ・外出の際は、本人に伺い行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	利用者の個性や尊厳を重視し、お化粧の継続、理美容の外出を取り入れている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	定期的に嗜好調査を行い、好みを考慮した献立となっている。また、職員と利用者が出来る限り調理や片付けなどに係わるようにしている。昼食は職員も同じテーブルで食事をしている。	食事は外注の給食サービスを利用しているが、できる利用者には盛りつけや味見、片付けなどお願いして職員とともに行っている。また、家族会時はソーメン流しや鍋、バイキングと趣向を凝らして「食」を楽しんでもらっている。家族とともに外食に出かける利用者もいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養管理は医師の情報や指示に従い、特養の管理栄養士と協働で行っている。ホームでは一日の水分・食事摂取量の管理を行い、必要に応じて対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは利用者全員が毎食後するように支援を行っている。又、居宅療養管理として協力歯科の定期的な診療等がある。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、管理表で行っている。日中は本人の自立を促す声かけや援助を行っている。また、常時リハビリパンツ2名で、夜間帯のみオムツ使用は1名、でP.WCは2名である。	排泄チェック表を作成して健康管理と個々の排泄パターンを把握している。可能な限り改善できるように排泄の自立に向けた支援をしており、現在日中は半数以上の利用者が下着で生活している。入居後に改善された利用者も多く職員の声かけや誘導で維持できるように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘症の方は、医療と連携し服薬管理を行い、排泄管理表・水分摂取表を活用し援助を行っている。又、食事にも多くの食物繊維類を取り入れたり、ラジオ体操やリハビリ体操、貯筋運動を毎日行い身体を動かしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴は曜日関係なしに一日おきに入るようになっており、毎日希望される方にも対応としている。ただし、入浴時間は午後から夕食前までとしている。	基本的には一日おきとしているが個々の希望や身体状況に応じて柔軟に支援している。在宅からの入居も多く羞恥心や本人の希望に応じて同性介助にも配慮し、安心して入浴してもらえるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	午前が主に体操・貯筋運動・レクで、午後はくもん学習と入浴となっている。行事等の参加は健康管理と本人の意志に基づき行っている。また、希望される方は昼寝を自由にされている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬は翌日の一日分を個別ケースに配分し食前食後の援助を行っている。また、薬の変更時も連絡簿やミーティングにおいて確認し合っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力に沿った役割として洗濯物干しや整理・ゴミ捨て・掃除・炊事等がある。また、新聞紙でゴミ箱作りもされている。その他、塗り絵を好まれる方が多くいる。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人希望の外出・外食は家族の協力をもらっている。ドライブや地域での行事参加は、積極的に支援を行い気分転換を図っている。	家族の協力をもらいながら一時帰宅や外泊、お墓参り、美容室、外食等に出かけている。また、ホームでも法人の行事見学、地域行事見学、また、職員体制に余裕をみつけてはドライブや買い物に出かけるなど外出支援を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	現金を所持されている方は、1名おられ自己管理である。また、個々の小口預かり金を預かっており買い物がいつでもできるようにしている。		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	利用者が家族や知人との連絡等を希望されるときは随時対応するようにしている。また、日常生活の様子を毎月の便りにスナップ写真を載せ家族毎に発送している。		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	生活の場としての環境は、利用者が落ち着けるような飾り付けや雰囲気・環境作りを図っている。また、季節に応じた飾り付けやスナップ写真を提示している。居室ドアののぞき窓には全室カーテンを取り付けプライバシーを考慮している。	木をふんだんに使用して造られたホーム内は温かみのある家庭的な雰囲気となっている。リビングからは直接ウッドデッキにも出入りできるため閉塞感もなく外気浴にも使われている。畳の部分もあり、利用者の昼寝用のベッドも置かれている。	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	通路端の南側2カ所にソファを設置、居間にもソファがあり思い思いの場所で過ごせるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>利用者の居室は個人の使い慣れた家具やソファなどを設置し、安心して過ごせるように配慮している。また、夫婦部屋になるような居室もある。</p>	<p>居室は使い慣れた机と椅子、テレビ、趣味の音楽を聴くためのCDラジカセ、タンス、家族の写真やぬいぐるみなどが持ち込まれて居心地よく過ごせるように配慮されている。</p>		
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>施設内環境としては、居間兼食堂を中心に広々としており、バリアフリー構造となっている。トイレには手摺りがあり、施設内に4カ所設置してある。又、トイレ表示も大きくしてある。</p>			

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
		○	3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない